経営

観光最前線

木部のメンテナンス

289 河合　篤司

日本で建物に害をなすシロアリは主に2種類ある。ヤマトシロアリは比較的寒さに強く、北海道北部を除く日本全国に見られる。イエシロアリは千葉県以西の温暖な沿岸地域を中心に生息している。最近では木更津市や館山市でも発見されている。

ヤマトシロアリは自分で水分を運べないため、餌となる木材が常に湿っていることが必要。そのために被害は浴室、洗面、トイレなどの水回りに多く発生する。

イエシロアリは自分で水分を運びながら加害するため、被害は建物全体に及ぶ。ヤマトシロアリに比べて性質がどう猛で、数十万匹から100万匹が集団となり、甚大な被害となる。

館山で旅館の大浴室のリフォームを計画している。15年前に新築し、数年前にシロアリの害を見つけ、部材の取り替えや薬剤塗布をしている。また、周辺の土壌処理など防蟻対策を試みたが、営業をしながらの工事でもあったため、完全に抑え込めたか不安が残る。

今回は思い切って1カ月ほど休館して大浴室を中心に、水回りや設備機器、配管のメンテナンスを実施しようということになった。

繁盛旅館なので1年前から工事日程を決め、リピーターや旅行エージェントに通知して予約を止めている。その上で、できる限りの防蟻対策をすることになった。

まず、シロアリに食害されている恐れのある部分を完全に除去する。特にカラン回りなどの常に濡れる部分については柱や土台などの主要構造部分までも除去することとした。柱を切り詰めた上でコンクリート基礎を1㍍以上立ち上げる。その上に土台を据え直す。さらに、木部に薬剤を塗布するなどの防蟻処理を施す。

客室露天風呂のウッドデッキも増設してから10年目に順次、人工木材に張り替えている。

最近では人工デッキ材の下地の根太や大引きまで人工木材やプラスチック製部品が出回っているが、従来の天然木材に比較すると2倍、3倍のコストが掛かる。客室に露天風呂を設置して付加価値を高める発想から始めたウッドデッキだが、長持ちさせるにはそれなりにコストが掛かる。

（柳建築設計事務所取締役）

帝国データバンク調査　11月の全国企業倒産

16ヵ月連続で減少

負債は2000年以降最少

帝国データバンクによると、2014年11月の全国企業倒産（負債1千万円以上の法的整理）は671件、負債総額は1100億2300万円だった。件数は16カ月連続の前年同月比減で、2014年の最少を記録。負債は2000年以降で最少となった。

件数は前年同月比18・2％減。前月比でも15・5％減少した。2014年の最少を記録したほか、2006年9月（667件）以来の低水準となった。

負債総額は前年同月比17・6％減、前月比17・8％減。6カ月連続で前年同月を下回り、2014年3月（1119億6千万円）も下回る2000年以降の最少となった。

件数を業種別にみると7業種中6業種で前年同月比減少。5業種で2ケタの大幅減となった。

このうち建設業は同19・0％減の141件。26カ月連続で前年同月比減少した。

卸売業は同34・2％減の96件。製造業は同32・8％減の80件。ともに30％を超す劇的な減少となった。大手メーカーの業績回復や輸出環境改善もあり、機械器具卸、金属製品製造などで減少が目立った。

サービス業は同8・6％増の164件と、唯一前年同月を上回った。

地域別では、9地域中6地域で前年同月を下回った。

このうち関東は同26・3％減の230件。近畿は同18・8％減の177件。建設業や卸売業を中心に、4カ月連続で前年同月を下回った。

北海道（同25・0％減、18件）、北陸（同14・8％減、23件）、中部（同17・4％減、100件）を含めた5地域で2ケタの大幅減となった。

東北は同22・6％増の38件と、最も大きい増加率となった。

増加はほかに中国（同3・3％増、31件）。四国は前年同月と同数（11件）だった。

規模別では、負債5千万円未満の倒産が376件で、構成比が56・0％と、25カ月連続で過半数を占めた。一方、負債10億円以上の倒産は20件と、低水準が続いている。

観光関係の主な倒産は、ホテル経営の釧路キャッスルホテル（北海道、民事再生法、負債9億6千万円）、旅館経営の岡崎屋旅館（山形県、破産、負債6億6700万円）、ホテル経営の清山（栃木県、破産、負債6億5千万円）。

内閣府など調査　自社の景況判断

大・中堅が「上昇超」

中小は下降超続く

内閣府と財務省はこのほど、法人企業景気予測調査の2014年10～12月期分を公表した。同期の「自社の景況判断BSI」（上昇とする企業割合から下降とする企業割合を引いた値）は、大企業と中堅企業で上昇が下降を上回る「上昇超」、中小企業で「下降超」となった。先行きは、大企業で引き続き「上昇超」も、中堅企業と中小企業で「下降超」となる見通し。

調査は全国の資本金1千万円以上の法人1万5714社に行い、1万2769社から回答を得た。

10～12月期の自社の業況判断BSIは、大企業（資本金10億円以上）が5・0、中堅企業（同1億円以上10億円未満）が10・8、中小企業（同1千万円以上1億円未満）がマイナス10・1。大企業、中堅企業は前回調査（7～9月期）に続き上昇超となったが、6・1㌽、4・3㌽それぞれ数値を落とした。中小企業も前回調査から0・1㌽数値を落とした。

今後の見通しは、2015年1～3月期が大企業5・0、中堅企業0・2、中小企業マイナス10・5。大企業と中堅企業は上昇超、中小企業は下降超で引き続き推移する見通し。

同4～6月期は、大企業1・6、中堅企業マイナス1・0、中小企業マイナス8・2。中堅企業が下降超に転じる見通しだ。

2015年度の企業収益見通しでは、売上高について増加を見込む企業が大企業で34・6％、中堅企業で34・3％、中小企業で19・6％となっている。

減少を見込む企業が大企業で9・6％、中堅企業で17・1％、中小企業で27・4％。

大企業と中堅企業で「増加」が「減少」を上回り、逆に中小企業で「減少」が「増加」を上回っている。

売上DI　中小企業の

前月比1.2ポイント上昇

3ヵ月連続プラスに

日本政策金融公庫はこのほど、中小企業景況調査の2014年11月分を公表した。同月の中小企業の売上DI（前月比で増加とする企業割合から減少とする企業割合を引いた値、季節調整値）は2・2と、前月から1・2㌽上昇した。DIがプラス値となるのは3カ月連続。

売上DIを7の最終需要分野別に見ると、家電関連、食生活関連、衣生活関連など6分野でプラス値、建設分野の1分野のみがマイナス値となった。

今後3カ月（11～1月）の売上見通しDIは12・3で、前月から4・5㌽上昇。5カ月連続のプラス値となった。

最終需要分野別では、建設関連のみがマイナス値となった。

調査は11月中旬、3大都市圏の同公庫取引先900社に行い、626社から有効回答を得た。

CIが2カ月連続で上昇

内閣府調査、10月

内閣府によると、2014年10月の景気動向指数（CI、速報、2010年＝100）は、景気の現状を示す一致指数が前月比0・4㌽増の110・2と、2カ月連続で上昇した。

CIの基調判断は「下方への局面変化を示している」として、前月の判断を据え置いた。

数カ月先の景気を示す先行指数は同1・6㌽減の104・0と、2カ月ぶりに下降した。

料理

<509>ひたし豆

マメで達者

泉鏡花の「湯島詣」（1899年）「柳沢は老実老実（まめまめ）しく…」。マメで達者で働けば、家はますます繁栄し、田畑をふやし、子宝にも恵まれて、老いてなおまめまめしく生き永らえることにつながる。

大豆（豆類を含めて）をもどして煮る家庭は、今日どのぐらいあるだろうか。市販品を求めることが大方であろう。

大豆は豆の王様。「畑の肉」とも称され、非常に栄養価のすぐれた食品で、本の受け売りになるが、肥満を防止する。コレステロールを下げるなど、このコラムに書ききれないほど良いことずくめである。

乾燥した大豆をもどして時間をかけて煮る。上手に美味しくとなると手間ひまがかかる。簡単でうまい食べ方を紹介しよう。

青大豆を一晩水に浸し、塩を少々加え、熱湯でやや固めに茹でる。八方地に豆を半日ほど浸す。これだけではお客料理にはならない。

椎茸には長い軸があるので、石付きの固い部分を切り、細く割く。昆布は一番だし汁の残り昆布を細くか、小角に切る。あられ切りの人参と一緒に八方地で煮含めて豆に加える。

少々手間がかかるが、材料の無駄を出さないことである。椎茸の軸などすててしまうのでためておいて無駄なく使いきる。小鉢に盛り、とび子か、くず数の子などをほぐして散らすと気の利いた一品。食べてもうまい。

（料理家・倉橋柏山）

IKGの旅館経営再生塾　第479回

四季と旬

新年、あけましておめでとうございます。本年も変わらぬご愛読のほどお願い申し上げます。

落語好きな私は新年といえば、初詣に行き寄席に行くということを中学生のころからずっと年課にしている。

落語自体が好きということもあるが、なんといっても初詣の神社、そして正月の寄席の雰囲気が現代において何とも懐かしい、いかにも日本の正月らしい雰囲気を味わせてくれるから大好きである。

ふと考えてみると、クリスマスから1週間しかない中で、街の雰囲気をはじめ、いろんな空気がガラッと変わるのは、当たり前のように何十年と過ごしているが、改めてすごいと感じる。それだけ日本人にとって季節感のあるイベントは大切なことなのだと気づかされる。昨年は10月のハロウィンも大きく盛り上がっていたことに驚かされた。ハロウィン自体は昔からあったが、こんなに日本に定着したのは最近ではないだろうか。

日本の世界に誇れるところという問いに対し、さまざまな答えがあるが、特に「四季」という答えに注目したい。これは、日本が四季をはっきりさせる場所にあるということだけではない。日本人は昔から、四季と上手に付き合って生活をする風土、文化を完成させている。

それに加え、新たに日本に入ってきた外国からの文化、クリスマスやハロウィンといったものもしっかりと生活に溶け込ませるという寛容さも持ち合わせ現代の日本の四季となっている。

さて、この四季は旅館業においてはなくてはならないものである。窓から見える景色に四季があらわれるので、旅館は季節感を出さなければいけない。

多くの旅館では当然季節感を大切にしているのだが、最近では季節感がめちゃくちゃだったり、あるいは完全に無視している旅館もある。

特に食事に関して、四季いわゆる「旬」が存在する。物流や生産性豊かな現在では、世界中の物が輸入できたり、1年中同じものが食べられたりと発展しているのだが、旅の館である旅館では、せめて旬のものを出してほしい。いつ行ってもアワビやカニというわけではなく、アワビにはアワビのおいしい旬の時期がある。旬は一番おいしいだけでなく、一番安い時期でもあるのだ。

今年も正月を迎え、世間の雰囲気を見ていて、日本人の四季、歳時記、そして旬というものを改めて見つめなおしたいと思った。

（飯島綜研・飯島一敏＝http://ik-g.jp/）

立ち止まって考える〈52〉

三太郎の抽斗（ひきだし）

渡辺清一朗

2014年、暮れも押し詰まった寒い1日。地下鉄・桜田門の駅に向かいながら井伊直弼のことを思い出した。ともすると二安政の大獄」の印象が深いせいかあまりいいイメージを持たれていないかもしれない幕末の偉人。旧暦と新暦の違いはあるが、誕生日が同じだということもあり、寒い季節になるとふとその人のことに思いが及ぶ。

サービス業でよく言われている言葉の中に「出迎え三歩、見送り七歩」という言葉がある。心から万端の準備をして出迎えることは大切だが、それと同等以上に見送りをおろそかにしてはいけない、との意味と解釈する。

このことを思う時、井伊直弼の著した「茶の湯一会集」の序にある「此書は、茶湯一会之始終、主客の心得を委敷あらはす也、故に題号を一会集といふ、猶、一会ニ深き主意あり、抑、茶湯の交会は、一期一会といひて、たとへハ幾度おなじ主客交会するとも、今日の会にふたゝひかへらさる事を思へハ、実に我一世一度の会也、去るニより、主人ハ万事ニ心を配り、聊も麁末のなきよう深切実意を尽くし、客ニも此会ニまた逢ひかたき事を弁へ、亭主の趣向、何壱つもおろかならぬを感心し、実意を以て交るへき也、是を一期一会といふ」という一節が頭をよぎる。

一期一会

一期一会の心構えは「客は、いとまの時、互いにおしゃべりなどせず、主人を振り返りながら感謝の気持ちを心と形であらわす。そして主人も客が見えなくなるまでこころから見送る。そのあと、早々と後片付けをすることなどしない。心静かに、にじり上りより席にもどり、炉前に独座して、心静かに今日の一期一会を顧みてもう一度自分一人のために茶を喫することなどをすることがその極意だ」とある。

一期一会もこの独座観念も井伊直弼の独創ではないかもしれないが「茶の湯一会集」がなければその心は今の世に伝わっていなかったと思う。

人と出会う前から出会うまでに重きを置くのが「ホスピタリティ」だとすれば、別れた後までをさらに心深く思い、二度とないかもしれない次の出会いに思いをはせることが「おもてなし」ではないだろうか。

外国人観光客の入り込みが過去最高を更新し続けていることは観光業界にとっては喜ばしいことではある。しかしその一方で、後を引くほどに心に残る「おもてなし」に出会うことが少なくなっているということも事実ではないか。

料理や音楽、設備など五感を心地よくすることは間違いなく大切ではある。しかし、出会いの時はもちろん、別れた後にまで思いを残す大和心の大切さを今一度考える新年にしたいものだと思う。

（慶応大卒後三菱銀行〈現三菱東京UFJ銀行〉入行。1990年杉乃井ホテル入社、2000年退社。EHS研究所代表。企業再生、経営改善の専門家）

謹賀新年　平成27年 賀正

タカミヤホテルグループ
深山荘 高見屋 MIYAMASO TAKAMIYA
HOTEL ルーセント タカミヤ HOTEL LUCENT
ホテル ハモンド たかみや HOTEL HAMMOND
高見屋別邸 久遠 KUON
湯杜 温味庵 山川
紅 BENI 高見屋最上川別邸 紅（BENI）
樹林 HOTEL JURIN
西洋茶寮 SEIYO SARYO
蔵王高湯 歴史と文化の美術館 わらべの里 Traditional and culture museum
瑞鳳倶楽リゾート RURIKURA RESORT
白布温泉別邸 山の季
株式会社 高見屋旅館
代表取締役社長 CEO 岡崎 彌平治 Yaheiji Okazaki
〒990-2301 山形市蔵王温泉54 TEL 023(694)9333 FAX 023(694)2166
URL http://www.zao.co.jp/ E-mail takamiya@zao.co.jp

十和田八幡平国立公園
秋田県鹿角市八幡平湯治の宿 後生掛温泉旅館
TEL ○一八六―三一―三三三(代)
FAX ○一八六―三一―三三三三

窓を開ければ野鳥の森と渓流のせせらぎ
政府登録国際観光旅館 日本野鳥の会協定旅館
養老牛温泉 湯宿 たいいち
代表取締役 長谷川　松美
〒088-2684
北海道標津郡中標津町字養老牛518番地
TEL (0153)㈹78-2131
FAX (0153) 78-2800
URL http://www.yoroushi.jp/
daiichi@yoroushi.jp

第一滝本館
代表取締役社長 南　智子
北海道登別市登別温泉町五十五番地
TEL ○一四三-八四-二二一一
FAX ○一四三-八四-二二〇二

野口観光株式会社
野口観光マネジメント株式会社
野口リゾートマネジメント株式会社
登別 石水亭
望楼NOGUCHI登別
ザ レイクビューTOYA 乃の風リゾート
絶景の湯宿 洞爺湖畔亭
源泉の湯宿 洞爺ごきらく亭
層雲峡 朝陽亭
層雲峡温泉 朝陽リゾートホテル
函館湯の川温泉 湯元啄木亭
望楼NOGUCHI函館
北湯沢温泉郷 湯元名水亭
北湯沢温泉郷 湯元第二名水亭
北湯沢温泉郷 湯元ホロホロ山荘
St.Haniel Chapel 緑の森の教会
箱根 きたの風茶寮
奥湯河原温泉 山翠楼SANSUIROU
奥湯河原温泉 海石榴つばき
代表取締役社長 野口秀夫
本社 北海道登別市登別温泉町二〇三一一
TEL ○一四三（八四）二二五〇
FAX ○一四三（八四）三二五六

登別温泉郷 滝の家
㈱登別温泉観光ホテル滝の家
代表取締役 須賀　秀郎
〒059-0551 北海道登別市登別温泉町一六二番地
TEL(0143)84-2222
FAX(0143)84-2611
URL http://www.takinoya.co.jp

心とけあう、くつろぎの宿
代表取締役社長 渡辺忠栄
政府登録国際観光旅館 ふくしま・母畑温泉・やはたや
八幡屋
〒963-7831 福島県石川郡石川町母畑温泉
TEL 0247(26)3131(代)・FAX 0247(26)1220

福島市／高湯温泉
旅館 玉子湯
代表取締役社長 後藤省一
〒960-2261 福島市町庭坂字高湯7番地
TEL 福島(024) 591-1171
FAX 福島(024) 591-4629
http://www.naf.co.jp/tamagoyu/

謹賀新年
平成27年1月元旦
松島温泉 湯元 松島一の坊 ICHINOBOH
代表取締役社長 高橋征太郎
宮城県松島町高城字浜1-4

山形県あつみ温泉 たちばなや
代表取締役社長 佐藤佐次右衛門
〒九九九―七二〇四 山形県鶴岡市湯温海丁三
TEL ○二三五（四三）二一一一
FAX ○二三五（四三）三六八一

ホテル王将グループ
ホテル王将
代表取締役社長 渋谷二三男
〒994-0025 山形県天童市鎌田本町1-1-14
TEL 023-653-3155
FAX 023-653-5760
IP 050-3161-0993
http://www.ohshokaido.co.jp

かみのやま温泉 天神の御湯 あづま屋
代表取締役 吾妻　永朗
〒999-3141 山形県上山市新湯1-23
TEL 023-672-2222
FAX 023-672-2225
mail to hotel@azuma-ya.co.jp
HP URL http://www.azuma-ya.co.jp